

外国語科学習指導案

令和5年10月 第1学年 指導者 齋藤 憂子

1 単元名

Lesson 6 In this Corner of the World 「第一学習社 Vivid English Communication I」

2 単元観

本単元は、こうの史代氏原作の漫画「この世界の片隅に」を題材に、戦時中の広島県呉市を舞台に一人の普通の女性が当時どのような生活を営んでいたのかについて取り扱っている。アニメーション映画やテレビドラマなど、様々な媒体で展開されており、いずれかの形でこの作品に触れた経験がある生徒は多いようである。終戦から78年を迎え、戦争体験者の高齢化によりその悲惨さや恐ろしさを伝える人たちが減少しており、かつて日本が戦争により多くの被害を受け、多くの生命が失われたことを知らない世代が増えている。本単元を通して、当たり前のように思える我々の平和な日常がいかに尊いものであるかを生徒は気付くことができる。

本単元では、主な言語活動として、漫画「この世界の片隅に」から抜粋した場面の英文を読み、英語を使って伝え合う目的や場面、状況に応じて適切な会話を作り、登場人物になりきってやり取りを行う。あるシナリオや登場人物のセリフから、場面や状況、登場人物の気持ちなど、必要な情報を丁寧に読み取ることで、生徒が登場人物のセリフを創作し、自然なやり取りを続けることができるようにする。コミュニケーションを円滑に進めるためには、相手の発言に対して相づちを打ったり、相手の発言がよく分からなかった場合には聞き直したりする事が必要である。英語のシナリオの特徴を学びながら、相手の発言に対して適切に相づちや聞き直しの表現を用いることができるよう支援する。

3 研究との関わり

本研究では、目指す生徒の姿を「自らの学びを振り返り、改善できる『自立した学習者』」と設定し、その実現に向けて講じる手立てを「知識の定着及び技能の向上を具体化するなりきりトーク」と「自己調整学習を促すラーニング・ジャーナルの活用」とした。

「知識の定着及び技能の向上を具体化するなりきりトーク」とは、設定された目的や場面、状況に応じてなりきる人物を変えながら、英語でやり取りを行う帯活動である。授業前の準備として、生徒は事前に与えられた設定に沿った人物になりきり、話すために必要な表現を辞書や検索エンジン等を活用して調べ、話す内容を創作する。活動時には、三人組を作り、話し手（Speaker）、聞き手（Listener）、数え手（Counter）と役割を変えながら、1分間のやり取りを行い、話し手の発語数（Word Per Minute=WPM）を記録する。第1ラウンドの活動後、1分間の練習時間を設け、WPMを増やせるようにキーワードを確認してから第2ラウンドの活動を行う。以上のサイクルを授業の冒頭に行い、一周目とする。次時にはなりきる人物を変え、同じ目的や場面、状況で二周目の活動を行う。こうして、同じ目的や場面、状況下で、なりきる人物を変えることで、複数の視点をもちながら、コミュニケーションを行う機会を設定することができる。また、生徒はこの活動を通して、同じ目的や場面、状況で複数の視点でやり取りを繰り返し行うことができ、多様な表現を身に付けることができる。新たに知識を得た表現と1分間のWPMの伸びについてはラーニング・ジャーナルに記録する。

「自己調整学習を促すラーニング・ジャーナル」とは、授業で作成したエッセイや音声、プレゼンテーション、スキットなど、個人の成果物を蓄積したり、学習時の気付きや考えを記録したりして、学習の進行具合を確認するための記録媒体のことである。生徒が目標予見、遂行統制、自己省察といった自己調整のサイクルを回すことができるように、単元の始め、単元の学習中、単元のまとめの三つのポイントでラーニング・ジャーナルを活用する。ラーニング・ジャーナルに記録を蓄積することで、自己の学習を繰り返し振り返ることにつながり、生徒自身が自らの学習や課題に能動的に関わり、自己調整を行いながら粘り強く学習に取り組む態度を養うことができると考える。

4 単元の目標及び生徒の実態

	目 標	生徒の実態
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在完了進行形、関係代名詞（主格・目的格）、S+V+0（＝疑問詞節）を用いた文の形・意味・用法を理解することができるようにする。 ・ 「この世界の片隅に」について、聞いたり読んだりしたことをもとに、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続ける技能を身に付けられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係代名詞（目的格）を含んだ文構造の理解や S+V+0（＝疑問詞節）の正しい語順の理解が難しい。 ・ 登場人物の考えや気持ちを伝えようとしているが、一問一答で話題が尽きてしまい、やり取りが続きにくい。
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「この世界の片隅に」の登場人物のセリフや物語の続きを考え、やり取りをするために、教科書の内容を聞いたり読んだりして得た情報や考えを活用しながら、目的や場面、状況に応じて適切な会話を作り、伝え合うことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師の示したモデルや教科書の内容を参考にしながら、目的や場面、状況に応じて適切な会話を作ろうとするが、内容がストーリーと合わないことがある。
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「この世界の片隅に」の登場人物のセリフや物語の続きを考え、やり取りをするために、教科書の内容を聞いたり読んだりして得た情報や考えを活用しながら、目的や場面、状況に応じて適切な会話を作り、伝え合おうとすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人ではできない課題でも、ペアやグループの仲間と協力したり、辞書や検索エンジンを活用したりして、課題に取り組もうとしている。

5 評価規準

知識・技能	①現在完了進行形、関係代名詞（主格・目的格）、S+V+0（＝疑問詞節）を用いた文の形・意味・用法を理解している。 ②「この世界の片隅に」について、聞いたり読んだりしたことをもとに、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続ける技能を身に付けている。
思考・判断・表現	「この世界の片隅に」の登場人物のセリフや物語の続きを考え、やり取りをするために、教科書の内容を聞いたり読んだりして得た情報や考えを活用しながら、目的や場面、状況に応じて適切な会話を作り、伝え合っている。
主体的に学習に取り組む態度	「この世界の片隅に」の登場人物のセリフや物語の続きを考え、やり取りをするために、教科書の内容を聞いたり読んだりして得た情報や考えを活用しながら、目的や場面、状況に応じて適切な会話を作り、伝え合おうとしている。

6 指導及び評価、ICT活用の計画（全8時間：本時第7時）

過程	時間	■ねらい □学習活動 ★ICT活用に関する事項	知	思	主	◆評価項目<方法（観点）> ○指導に生かす評価 ●評定に用いる評価
		[単元・題材の学習課題・問い等] 「この世界の片隅に」の主人公すずや、他の登場人物になりきり、ある目的や場面、状況に応じた登場人物のセリフや物語の続きを考え、英語でやり取りをする。				
つかむ	1	■単元のテーマに対する生徒の興味・関心を喚起するとともに、単元の学習課題についての見通しをもたせる。 □教師の発問に答えたり、教科書中のイラストを見たりして、背景知識を高める。			○	◆教科書中のイラストや既存知識を活用して、教師の発問に答えようとしている。 <観察（態）> ◆登場人物の性格に注目して視聴している。 <ラーニング・ジャーナル（態）>

		□「この世界の片隅に」の一部分を視聴し、登場人物の性格をつかみ、本題材の見通しをもつ。				
追究する	2 3 4 5	<p>■表現活動に活用できるように、各 part の新出語句や言語材料の意味や用法を確認し、教科書の内容を理解させる。</p> <p>□新出語句の意味を確認する。</p> <p>□T/F や Q&A の質問に答えながら、本文の内容を理解する。</p> <p>□音読を通して、内容理解を深める。</p> <p>□学習した内容を活用して、表現活動を行う。</p>	○	○	<p>◆「この世界の片隅に」が他の映画と異なる点について理解している。 <ワークシート（知）></p> <p>◆主人公のすずがどのような人物かについて理解し、すずの家族になったつもりで、すずに話しかけている。</p> <p><観察・ワークシート（知・思）></p> <p>◆「夢」についてのすずと周作の対話内容について理解し、すずになったつもりで、周作の最後のセリフに返事をしている。</p> <p><観察・ワークシート（知・思）></p> <p>◆「この世界の片隅に」が私たちに教えてくれることについて理解し、日常生活の中で幸福を感じるときについて話している。</p> <p><観察・ワークシート（知・思）></p>	
まとめ	6 7 8 本時	<p>■本単元で学習したことを参考にし、「この世界の片隅に」の登場人物になったつもりで、会話を作り、やり取りを行わせる。</p> <p>□漫画に描かれている場面や状況を読み取り、すずと周作の会話を考えて録画する。</p> <p>□すずとすずの家族が久しぶりに会ったらどのような話をするかを考え、録画する。</p> <p>□撮影した動画を上映し、感想を伝え合い、フィードバックを行う。</p>		●	●	<p>◆漫画に描かれている場面や状況を読み取り、ストーリーに合うセリフを考え、伝え合っている。</p> <p><観察・動画（思）></p> <p>◆本単元で学習した情報や考えを踏まえ、久しぶりに再会した家族との会話を考え、伝え合っている。</p> <p><観察・動画（思）></p> <p>◆クラスメイトの動画を見て、感想を伝え合っている。</p> <p><観察（態）></p>
<p>[本時のめあて・課題・見通し等] すずとすずの家族になりきり、そのやり取りを創作し、演じたやり取りを録画する。</p>						

7 本時の展開（7／8時間目）

- (1) **ねらい** 教科書の内容を聞いたり読んだりして得た情報や考えを活用しながら、目的や場面、状況に応じて適切な会話を作り、伝え合うことができるようになる。
- (2) **準備** 教科書、ワークシート、パソコン
- (3) **展開**

<p>主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕 ★ICT活用に関する事項</p>	<p>◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）</p>
<p>1 帯活動としてなりきりトークを行う。 (導入①13分)</p> <p>Topic: You don't look well. What's the matter? Situation: You are Suzu. You've just moved to a new place and started a new life, so you don't have any friends and you don't get used to it. You are chatting with Shusaku, your husband.</p> <p>S1: "You don't look well. What's the matter?" S2: "I feel a little stressed these days. I think that's because I'm tired. I have to wake up early and go to the well every day. Also, I have a lot of housework to do, like cooking, laundry, and sewing. But don't worry, I'm really happy to be with you. I feel happy just because we are alive. Thank you for marrying me, Shusaku-san. There are some difficulties, but I'm happy to be a member of your family."</p>	<p>◎事前に準備を行い、自分ではない人物になりきって1分間たくさん話す活動を行うことで、英語で表現できるフレーズを蓄え、幅広い表現を引き出せるようにする。</p> <p>◎第1ラウンドと第2ラウンドの間に時間を設けて、話す内容を振り返らせることで、1分間の発話量を増やせるようにする。</p> <p>◎第2ラウンドまで行うことで、第1ラウンドよりもスムーズに言葉を発話したり、グループの人が使っていてよいと思ったフレーズを自分の発言に取り入れたりして、伸びを感じられるようにする。</p>
<p>2 これまでの学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。 (導入②5分)</p> <p>S: 「前は原稿を見ながら話していたから、今回は顔をあげて話せるようにしよう」</p>	<p>◎前時に録画した漫画の吹き出しを想像するやり取りを振り返り、今回はどのようなめあてを設定するかを考えることができるようにする。</p>
<p style="text-align: center;">＜めあて・課題・見通し等＞</p> <p>すずとすずの家族が久しぶりに会ったら、どのような会話をするか、演じよう。</p>	
<p>3 前時に考えたセリフをもとに、すずとすずの家族との会話を練習する。（展開①12分）</p> <p>S1: "Long Time no see, Suzu. How have you been?" S2: "Hi, mom. I've been doing well. Actually, I adopted a child from the Ukraine." S1: "A child from the Ukraine? I didn't know that!" S2: "She is a 4-year-old girl and she looks like my niece. She eats a lot these days, so I have to cook a lot of food. We don't have enough food, but I am looking for edible wild plants to cook with." S1: "Wonderful. Tell me how to cook them later. What's her name then?" S2: "Rin. Come and see Rin and my husband next time." S1: "Sure. I will."</p>	<p>○既出のループリック（表現）を示すことで、声、目線、ジェスチャーなど相手への伝わりやすさを意識して録画に取り組むことができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆評価項目 本単元で学習した情報や考えを踏まえ、久しぶりに再会した家族との会話を考え、伝え合っている。 <観察・動画（思）></p> </div>
<p>4 練習を活かして、声、目線、ジェスチャーを工夫して録画し、納得がいくものを提出する。 (展開②15分)</p> <p>S: 「思っていたより顔が映らないから、位置を調整しよう」 S: 「話したいことがより伝わりやすいように、ジェスチャーを使ってみよう」</p>	<p>○何度か録画し直せるように余裕を持って時間配分を行うことで、試行錯誤してより相手に伝わる動画を録画できるようにする。</p>

<p>5 本時を振り返りラーニング・ジャーナルに記録する。(終末5分)</p> <p>S: 「セリフをすらすら言うのが難しかった。もっと繰り返し練習が必要。」</p> <p>S: 「映画の内容からすずの気持ちを想像してセリフに表せた。」</p>	<p>◎本時で学んだことや表現したかった内容をラーニング・ジャーナルに記録し、次時以降へ活かせるようにする。</p>
--	--

セリフづくりで使用したスライド

Play the roles of Suzu and her family. What will happen to them in the future?

[scenario] Suzu lives in Kure, and comes back to Hiroshima after a long time. She is having a chat with her family about her life.

A: Long Time no see, Suzu. How have you been?

B: Hi, [mom / dad / Sumi-chan]. I've been [doing well / same as always / not bad / busy]. Actually, I adopted a child from the Ukraine.

A:

B:

A:

B:

ループリック

	セリフ		発表		
	表現	内容	声	目線・態度	ジェスチャー
A (5点)	全体で3往復またはそれ以上のやり取りができており、かつ、文法やスペルのミスが2か所以内である。	すずの戦後の生活の様子がうかがえ、かつ、 <u>相づち・聞き直しの表現を両方用いている。</u>	スピードや間、抑揚に気を付けて話しており、 <u>聞き取りやすい。</u>	<u>相手と目線をあわせながら</u> 話そうとしている(3回までちら見はOK)。	<u>やり取りに合わせて</u> 、ジェスチャーを使っている。
B (3点)	全体で2往復のやり取りができており、かつ、文法やスペルのミスが4か所以内である。	すずの戦後の生活の様子がうかがえ、かつ、相づち・聞き直しの表現のどちらかを用いている。	スピードや間、抑揚に気を付けようとしているが、聞き取りにくい部分もある。	Chromebookにところどころ目を落としながら話している(5回まで)。	ジェスチャーを使っている。
C (1点)	やりとりを考慮することができない。	すずの戦後の生活の様子がうかがえない。	聞き取りにくく、間や抑揚に工夫がない。	相手役を見ないでChromebookをずっと見て話している。	ジェスチャーを使っていない。